

# 赤野井湾底質改良水域のモニタリング調査

幡野 真隆・岡村 貴司

## ◆背景・目的

湖底質の悪化の著しかった赤野井湾において、漁場環境を改善するため、平成4年から10年にかけて堆積泥の浚渫と覆砂事業が行われてきた。本調査は、その改善効果の維持状況を把握するため継続して実施している。

## ◆成果の内容・特徴

- ・過年度と同様、平成4、6、8年覆砂地点および無覆砂地点(図1)において底質および底生生物の分布状況をモニタリングしたところ、平成8年覆砂区で引き続き泥の堆積が認められ、貝類も他地点よりも少なかった。
- ・魚類の生息状況は、覆砂地点でモロコ類が対照区よりも多く捕獲されたほか、在来魚の種類も多かった。
- ・平成16年度から水草の繁茂状況を調査しており、今年度も覆砂区域内および無覆砂地点で水草の繁茂が確認された(図2)。

## ◆成果の活用・留意点

- ・湾内北東部で泥の堆積や水草の繁茂が認められたことから、今後も動向を注意深く監視していく必要があるとともに、必要に応じて耕耘等の改善策を講じる必要がある。

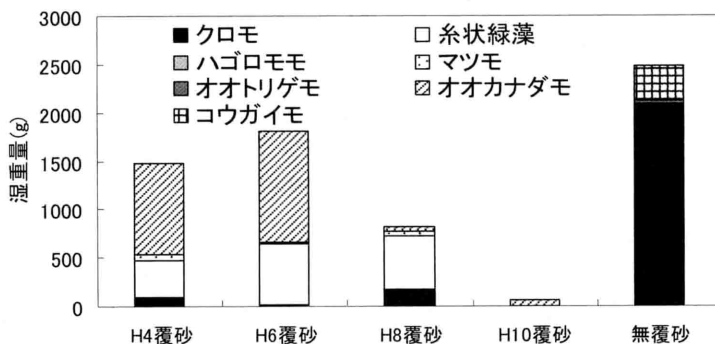


図2 水草繁茂状況

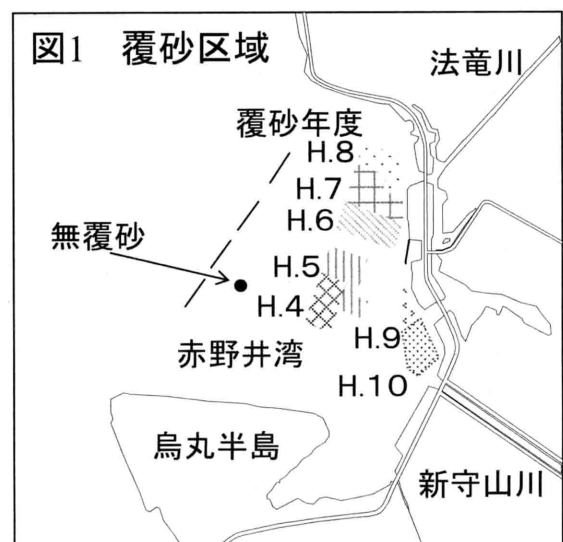


図1 覆砂区域